

あるブログから

(40号 2014年6月18日)

指導者のみなさん、インターネット上に出ていたこのブログの文章、どう思われますか。

「スポ少指導者の資質を問う」 ～罰と言う名のいじめ～

コーチや監督の意向にそむいた。したがって 大事な試合だが “君は この試合出さない”。 6年生は たった2人の 小さな地方の 小規模校。

県体育大会の予選会。親も爺やもかけつけ 大応援団。勝って県体育大会に出よう。応援席は 小さな小学校の 大応援団。

罰と言うコーチの 仕打ちに 遂に“親御さんが 切れる”。 確かに コーチにそむいた。しかしそれは練習時のこと。それを試合まで持ち込み、その先は 選手の不起用だ。

大事な 試合である。 当然 その子は チームのリーダーだ。そのコーチに 素直な対応が出来ないと言い、日干しと言う コーチの ” いじめ” が あった。

親御さんも 遂に 腹を立てた！ 子供を ミニバスから引退させる。

子供は 3年間も練習を重ね、ようやく6年生のレギュラーに。それがこのありさま・・・

情けない。子供には 6年生は たった1回しかない。コーチにそむいたら その仕打ち は 試合に出さない！

小さな出来ごと、事件ではあるが、この手の話題が意外と多い この業界。

罰という、試合に出さないという ” いじめ”。

大げさに出来ないこの手の事件！

ミニバスの指導者諸兄、もう少し子供を大きな視野で見てやって！！

私がこの内容に解説を付ける必要は全く無いでしょう。ミニバスケットボールの指導に関わっている我々なら日頃から気をつけていることです。子どもは我々指導者のために存在するのではないのですから。子どもたちがミニバスを楽しむこと、もっと運動が好きになること、そして心と体の成長に結びつけることが山口県ミニバス連盟の目指しているところですから。

それにしても、こんな指導者がまだまだいるのが悲しいですね。責任を感じています。